

15 番	高桑 茂樹 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1、地域コミュニティーにおける防災・減災について</p> <p>【質問趣旨】 平成30年度は、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道地震等が発生し、改めて、自助・共助や地域コミュニティーの防災力の重要性に関心が集まっています。本市では、地域防災の担当を危機管理課から、消防課に移管をして、さらなる地域防災力の向上を目指すことになっているが、地域コミュニティーの防災・減災の役割について伺う。</p>	<p>(1) モデル地区の次に行くことについて</p> <p>(2) 1人ひとりが自ら取り組めること (自助)</p> <p>(3) 地域や身近に居る人同士が一緒に取り組むこと (共助)</p>	<p>① 長根連区と山口連区が地区防災計画作成モデル地区として、防災マップを作成中と伺っているが、次のステップは、自然災害はもとより様々な災害による被害想定の上、減災対策の協議を行い、防災活動の訓練や備蓄食・防災資機材への認識、その他の共助支援策等を考えるため、防災マップを活用して地区全員が共有していくべきと考えるが、考え方を伺う。</p> <p>① 災害が起きてから、3日(72時間)を生き延びるための心構えと備えが必要であり、さらなる啓発が必要と考えるが、考え方を伺う。</p> <p>② ローリングストック法を活用して、普段から食材や加工品を少し多めに買って置き、使った分だけ新しく買い足すことで、常に一定量の食料を備蓄できることを啓発することが必要と思うが、考え方を伺う。</p> <p>③ しかしながら、アレルギーの方々が、災害時に対応するには限界がありますが、瀬戸市防災備蓄計画では、どのような配慮がなされているか伺う。</p> <p>① 発災後はしばらくの間は、地域住民が自発的に地域コミュニティーで助け合わなくてはならないが、救助活動、避難誘導、避難所運営等を行うことの重要性を市民に呼び掛けていくべきと考えるが、周知をどのようにしていくのか伺う。</p> <p>② 過去の大規模広域災害から「公助の限界」は明らかであり、家族でできること、隣近所で力を合わせてできること等を考え、相互に助け合うことが重要であり、自助・共助による「ソフトパワー」を効果的に活用することが不可欠であると考えるが、考えを伺う。</p>

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15番	高桑 茂樹 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	<p>(4) 停電について</p> <p>(5) 女性や若者など多様な住民の視点での参画について</p> <p>(6) 防災人材について</p>	<p>① 昨年9月4日午後、市内一部で台風21号による長時間停電が起きました。このような出来事を、どのように把握されているのか伺う。</p> <p>② 停電の地域には、瀬戸市の公共施設がありましたが、問題点や改善点はなかったのか、検証を行ったのか伺う。</p> <p>③ 停電の起きた地域は、地区防災計画のない地域であったが、自助・共助・公助の取り組みは出来たのか伺う。</p> <p>① 地域コミュニティーや地域防災組織では、担い手の高齢化や若手を中心とした住民の地域組織離れが進んでいるため、地域全般への多様な住民の参加を促し、特に女性が参画しやすい雰囲気・環境を整備することが必要と考えるが、考えを伺う。</p> <p>① 本市では、「すべての市民を防災人材に」が目標であるが、特に高学年の小学生や中学生を中心に防災人材を育てていくことで、将来の防災の担い手として、地域が主体となった本来理想とする、ボトムアップ型の防災となり、また、地区防災計画を策定した地域では、防災マップ作り⇒まち歩き⇒話し合い⇒見直しのサイクルで検証を行うことで、地域防災力のさらなる向上へとつながると考えるが、考え方を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。